

麻しん 風しん 対策！

○麻しんについて

☆麻しんは、麻しんウイルスを吸い込むことでうつりますが、感染力が強く、免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症する病気です。

☆潜伏期間は10～12日（約2週間）です。

患者さんと接したからといって、すぐに発病するわけではありません。



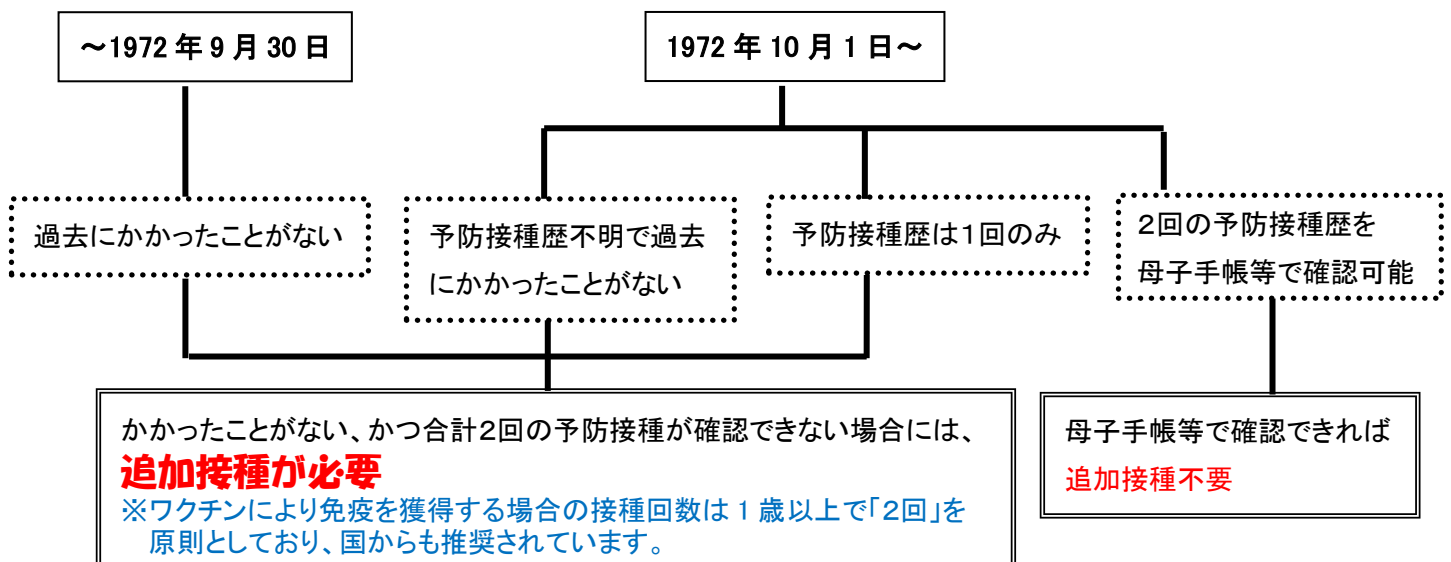
☆初期症状（はじめの3～4日）は発熱（38℃前後）と咳、鼻水、目の充血、目やにが出る、などです。その後いったん熱が下がり、再び熱が出ると同時に全身に発疹が出ます。さらに4～5日高熱が続きます。

☆定期接種前の1歳未満児や、免疫機能が低下している状態の子が麻しんを発症した場合、重症ウイルス性肺炎等で死に至る場合があります。

生まれ年で分かるワクチン接種状況チェック！！

生年月日	法に基づく接種制度	感染リスク
1972(昭和47)年9月30日以前	接種なし	自然感染によって免疫を十分に持っている人以外は、感染のリスクあり。
1972(昭和47)年10月1日～ 1990(平成2)年4月1日	1回接種のみ	定期接種として1回しか接種していないため免疫が不十分で感染のリスクあり。
1990(平成2)年4月2日～ 2000(平成12)年4月1日	1回接種だが、特例措置 (※)で追加接種の機会あり	特例措置として2回目の接種を受けていない場合は、感染のリスクあり。
2000(平成12)年4月2日～	2回接種	感染のリスクは低い。

※特例措置：2008(平成20)年4月1日から5年間の期限で、麻しんと風しん混合ワクチンの定期接種対象者が第3期(中学1年生相当)、第4期(高校3年生相当)に拡大され、2回目のワクチンを定期接種で接種できる措置のこと。



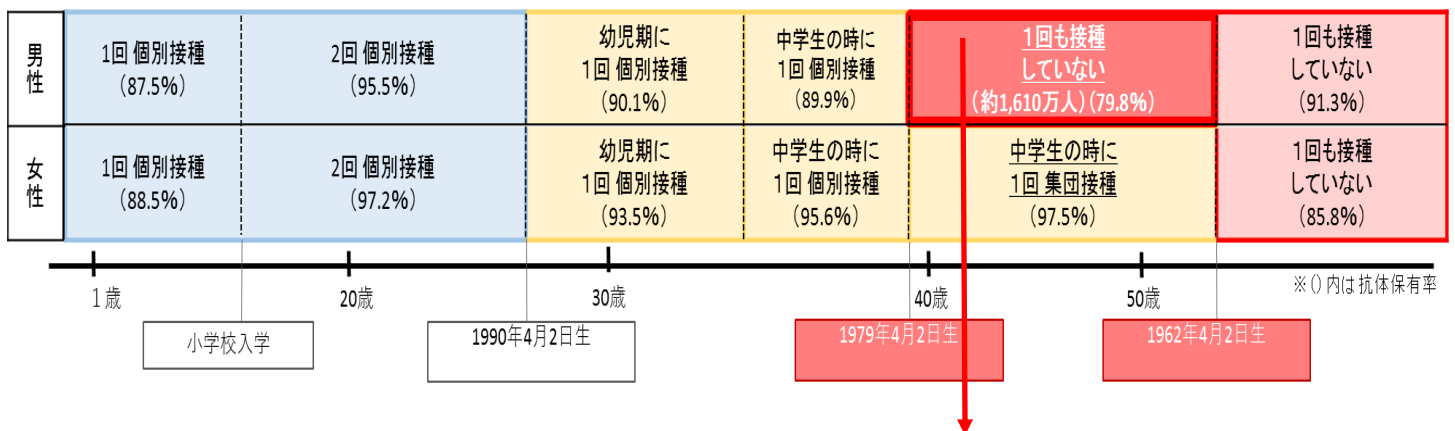
○風しんについて

- ★風しんは、患者さんの飛まつ（唾液を含んだしぶきなど）によりうつります。
 - ★潜伏期間は2～3週間です。発しん出現の前後1週間は他の人に感染させる可能性があります。
 - ★主な症状は発しん、発熱、リンパ節の腫れなどです。
- 妊娠初期（20週まで）の妊婦が感染すると、赤ちゃんに障がいが生じる可能性があり、妊娠中の方やその周囲にいる方は、特に注意が必要です。

★ 追加的対策（2019年度～3年間）

特に抗体保有率が低い現在40～57歳の男性に対し、自治体がクーポンを発行しています。

- ① ワクチンの効率的な活用のため、まずは抗体検査を**原則無料**で実施
- ② 予防接種法に基づく定期接種の対象とし、**原則無料**で定期接種を実施



この年代の男性は明らかな既往が無い限り、麻疹・風しんとも免疫不十分で感染のリスクが高いです。今回の制度では、麻疹ワクチンも一緒に受けられるため、まず検査を受けましょう。（希望すれば、来年度対象の48歳～57歳※でもクーポンを発行してもらえます。）

※2019年度の満年齢で示しています。

★ 各市町村での対策

妊娠希望者やその同居家族に対して、各自治体の独自サービスとして、抗体価検査などの助成を行っています。詳しくは、お住まいの市町村にお問い合わせください。

最後に

- ◆予防接種歴は、①母子手帳の記載で確認、②平成2年以降の接種に関しては、実施した自治体に本人が問い合わせれば、確認可能な場合があります。
- ◆麻疹又は風しんのどちらかにかかったのかは、記憶があいまいな場合が多いので、医師から確実に診断を受けたかを確認しましょう。
- ◆ワクチン接種後の年数経過と共に免疫が減衰し発症することがあるため、麻疹と風しんに関しては2回接種が推奨されています。**ワクチン2回接種者の抗体保有率は、約99%です。かかったかどうか・ワクチン接種歴を確認の上、合計2回予防接種を受けましょう。**